

Even a perpetually-in-the-red company is given a warm welcome in the stock market.

清算までずっと赤字の会社でさえ、株式市場では心から歓迎される。

【設例】

2014年4月1日に資本金1億円で会社を設立した。  
将来の上場を視野に会社設立時から毎年公認会計士から会計監査を受けており、  
毎年適正意見が表明されている。  
会社設立から5年後の2019年4月1日に株式市場に株式を上場させた。  
上場後も公認会計士からは毎年適正意見が表明されている。  
会社清算期日は2024年3月31日であると定めている。  
会社設立から会社清算までの損益の状況は、下記の表の通り予想されている。  
この時、次の問いに答えよ。

【問い】

問1: 株式上場後、この会社の株式は株式市場でいくらで取引をするべきだろうか？  
問2: そもそもこの会社の株式は株式市場に上場させても問題はないのだろうか？

会社設立から会社清算までの損益状況の予想↓

|        | 2015年3月期 | 2016年3月期 | 2017年3月期 | 2018年3月期 | 2019年3月期 |
|--------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 当期純利益  | ▲100万円   | ▲100万円   | ▲100万円   | ▲100万円   | ▲100万円   |
| 株主資本合計 | 9,500万円  | 9,000万円  | 8,500万円  | 8,000万円  | 7,500万円  |

|        | 2020年3月期 | 2021年3月期 | 2022年3月期 | 2023年3月期 | 2024年3月期 |
|--------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 当期純利益  | ▲100万円   | ▲100万円   | ▲100万円   | ▲100万円   | ▲100万円   |
| 株主資本合計 | 7,000万円  | 6,500万円  | 6,000万円  | 5,500万円  | 5,000万円  |

【解答例】

問1の解答例: この会社の株式は株式市場で「5,000万円」で取引をするべきである。  
なぜならば、この会社の清算価値は「5,000万円」だからである。  
問2の解答例: この会社の株式を株式市場に上場させても何ら問題はない。  
なぜならば、会社の開示情報に誤りがない限り投資家の利益は何ら害されてはならず、  
また、たとえ会社設立から会社清算まで全事業年度に渡り赤字続きであるとしても  
投資家はその会社の株式の本源的価値を開示情報に基づき正確に計算できるからである。